

小規模保育事業の実施について

1. 趣旨

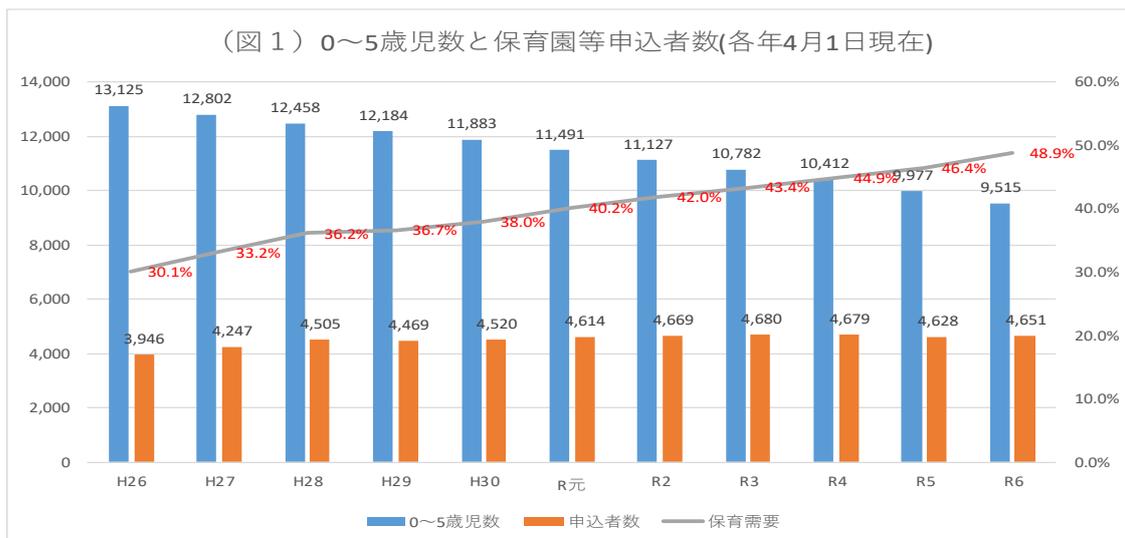
保育園等入所待機児童については、4月1日時点の数は6年連続ゼロを達成したものの、新たな保育需要に対応するまでの余裕がないことから、年度途中の待機児童は発生している。

保育需要はピークに達しつつあると考えられるが、待機児童の大半を占める、0、1歳の当面の間の受け皿を確保することを目的に、公立施設を活用した小規模保育事業を実施したい。

2. 待機児童の状況

近年、出生数の減少により、4月1日時点で0歳から5歳までの就学前児童数が、1年で300～400人程度減少している。

一方、保育園等の入所申込者数は、4月1日入所分で4,600人台を推移しており、就学前児童数に対する入所申込者数の割合は右肩上がりに増加している(図1)。年度後半になると、入所申込者数は累計5,000人を超えている。



こうした状況の中、4月1日時点の待機児童数は6年連続ゼロを達成したものの、年度途中に増加する保育需要に対応するまでの受け皿がないことから、年度途中の待機児童が発生しており、本年度は10月1日時点ですでに100人を超えている。待機児童の全てが3歳未満児であり、0歳児及び1歳児が大半を占める。(表1)

さらに、令和7年4月の入所申込も例年と同程度の申込みがあり、市全体では1歳児の受入枠が不足する見込みである。(表2)

0歳児は、4月1日時点では空き枠があるが、産休・育休復帰による年度途中入所申込等により、定員が充足する見込みである。

この傾向は、今後も続くものと考えられることから、主に0、1歳児の当面の間の受け皿を確保することが必要である。

(表1) 待機児童数の推移

歳児	R3.10.1	R4.1.1	R4.10.1	R5.1.1	R5.10.1	R6.1.1	R6.10.1
0歳児	44	90	57	99	50	90	101
1歳児	4	0	6	11	20	25	0
2歳児	0	3	3	0	2	2	0
3歳児	0	0	0	0	0	0	0
4歳以上児	0	0	0	0	0	0	0
合計	48	93	66	110	72	117	101

(表2) 各年度4月1日入所申込状況

歳児	R3			R4			R5			R6			R7		
	受入枠	申込者数	過不足	受入枠	申込者数	過不足	受入枠	申込者数	過不足	受入枠	申込者数	過不足	受入枠	申込者数	過不足
0歳児	341	264	77	342	284	58	339	273	66	340	261	79	288	235	53
1歳児	628	699	△ 71	627	729	△ 102	633	786	△ 153	639	762	△ 123	672	747	△ 75
2歳児	815	820	△ 5	819	823	△ 4	836	856	△ 20	842	876	△ 34	873	857	16
3歳児	946	968	△ 22	931	893	38	954	873	81	950	927	23	975	954	21
4歳以上児	2,073	1,929	144	2,044	1,950	94	2,086	1,910	176	2,080	1,825	255	2,053	1,890	163
合計	4,803	4,680	123	4,763	4,679	84	4,848	4,698	150	4,851	4,651	200	4,861	4,683	178

※申込者数には、継続児及び転園希望児童も含む。

※令和7年度は、1次申込締切時点の状況。

3. 実施方法

(1) 利用定員

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
定員	3人	7人	9人	19人

(2) 職員配置

	正規	会計年度	小計	合計
保育士	5人	4人	9人	10人
調理員	—	1人	1人	

(3) 開始時期と実施予定期間

開始時期: 令和7年9月

実施期間: 5年(実施期間中の保育需要の動向等を基に、その後の対応を検討予定)

(4) 実施場所

調整中(保育需要の大きい圏域での実施を想定)

(5) その他

既存公立保育園等の中には、3歳未満児の保育室が面積的に余裕のある園があることから、小規模保育事業の実施に当たっては、既存園での受入枠拡大とバランスを図りながら進めていくこととする。そのために、臨時的任用職員や会計年度任用職員の採用により保育士の確保に努める。